

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2371601184		
法人名	杉友商事株式会社		
事業所名	グループホームあすか		
所在地	愛知県名古屋市長区高宮町1605-1		
自己評価作成日	平成21年9月25日	評価結果市町村受理日	平成22年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2371601184&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2371601184&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 TMCサポート
所在地	愛知県名古屋市長区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F
訪問調査日	平成21年11月11日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

月/1回のリーダー会議は年間の計画を立案し、研修をしている。リーダー間で習得した内容を各ユニット会議にフィードバックし、職員全員が共通目標を持ち、介護にあっている。特にご入居者の発する言葉そのものを大切に、ご入居者の視点で支援を考えていく取り組みに力を入れ、認知症の深い理解をする努力をしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

運営法人は天白区内に6箇所の地域密着型サービス事業所を運営しており、各事業所が密に連携をとっており、会議等の中で各事業所の情報や取り組み内容、抱える課題等情報の共有を図ることで積極的にサービスの質の向上に努めている。また、定期的に研修会等実施をし職員教育にも力を入れており、サービスを利用する利用者・家族の安心・満足へと繋がっている。一人ひとりの何気ない言葉を記録に残し、その言葉の持つ意味を職員間で考えることで、本人の思いや意向に沿った支援を行うことが出来るよう努めている。今後も地域対して、認知症・地域密着型サービスの理解を深める活動の充実等事業所が地域の資源となるような取り組みの充実を期待するところである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議において理念を共有、ユニット毎に目標を立案、全員で評価、実践につなげている。	管理者以下職員は、事業所の掲げた理念をよく理解し利用者個々に何が必要かについて把握に努め日々の介護業務に反映できるよう取り組んでいる。	現在法人の理念に沿って日々の支援を行っているが、地域密着型サービスとして事業所単位での理念の構築に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩、買い物などに出かけ、地域の方達と挨拶を交わしている。 地域の祭りに作品を出展するなどし、地域の行事にも積極的に参加をしている。	日頃から地域に根ざした活動を行い、地域住民との関係構築に力を入れている。また、利用者が作成した作品等を地域行事に出店することで、ホームでの活動の理解を求めている。	認知症・地域密着型サービスの理解を深める活動の充実等事業所が地域資源となるような取り組みの実施に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の見学対応時には実践内容を詳しく説明している。 実習生の受け入れを積極的にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員より、地域参加の催し、畑等の提供があり、積極的に取り組んでいる。	定期的に行われている運営推進会議では、事業所の近況や活動内容について具体的な説明をしており理解を得るよう努めている。また、様々な意見交換が行われており、事業所の日々の取り組みの中に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	特に生活保護対象者のケアプラン提出時に暮らしぶり、ニーズを具体的に伝えている。	区役市担当者と密に情報交換を行い、良好な関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修をし、職員間の共有認識を図っている。 外出時に声かけをしたり、同行する等、安全面に配慮し見守り方法を職員間で常に意見交換している。	管理者・職員は、利用者の抱えている問題やリスクを話し合い、身体拘束排除への取り組みの理解を深めている。また、利用者にとって何が一番よいのかを考えることで、意識の統一を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を実施、理解浸透の取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見の必要時には、施設長、管理者が対応をしている為、他職員の理解はない。体制は万全ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な時間をとり、ケアに関する考え方、取り組み、対応可能な範囲の説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情報告書にて、検討会を開き対応、報告を早急に行っている。	来所時に家族と話す機会を設け、意見・要望の把握に努めている。受け止めた希望は毎月の会議で利用者ごとに検討して対応しており、アンケートでの満足度も高い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議(月/1回)個別面談(随時)を実施している。 職員アンケートにて、口頭では意見しづらい部分を把握するようにしている。	管理者は、個別面談・会議はもとより日常的に職員が自然に意見が言える事業所風土を作っている。出された意見や提案は積極的に運営に反映させている。その結果職員のモチベーションは高くサービスレベルの向上につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は頻繁に現場に来ており、管理者を通し、職員個々の業務や資質を理解している。 年2回人事考課を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を多くの職員が受講できるように考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会への参加の取り組みを計画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談にて、本人の求める事、不安を理解するよう傾聴し、把握している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談にて、事業所の対応内容を話し合い、家族の苦勞を受け止めサービス内容を相談しながら決定している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談事をしっかり受け止め、状況の把握をしている。また、会話や相談を繰り返していく中で信頼関係を築けるよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の言葉を大切に受け止め言葉から「不安」「喜び」「楽しみ」を知るよう努力している。「共に生きる」を念頭においている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添う事、情報を共有し、月の様子報告をしている。 通信には個別写真、コメントの提示をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由にしていだけるよう環境を整えている。	職員は利用者一人ひとりと何気ない会話の中から思いや希望を引き出している。外出等希望に沿った支援を行っている。また、ホームでは実現が難しいことでも、家族との協力で利用者の様々な要望に応えることができる体制作りにも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者間の関係性を十分理解した上で、関わりを持っている。 誕生日を全員で祝う。誕生者の好みのメニュー献立で、調理支援し、祝っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院、他施設に移られる場合には、アセスメント、ケアプラン、支援状況等の情報提供をし、環境変化による混乱、不安を最小限にできるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1回/月のカンファレンスには、職員全員で行動・表情の把握ができるよう、担当者はシートを記入し、それをもとにカンファレンスの実施をしている。	日々の何気ない言葉から、利用者の希望・要望の把握に努め、実施に向け努めている。また、温かみのある日常支援を行い利用者の尊厳を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バググランドを知る事の重要性を職員は理解し、現存能力を生かし、馴染みの生活を支えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できる事、できない事シートの記入をし、職員全員がご入居者の現存能力を知り、また、潜在能力を引き出す努力をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回2名のサイクルでカンファレンスをおこない、意見交換している。	定期的に行われるカンファレンスにより介護方針が検討されており、利用者の状態が変化した時にはその都度介護計画が検討され、常に適切な支援が提供できるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌、申し送りノート、気づきノートの記入を徹底し、職員全員が把握するように努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況に応じ、専門医への通院介助、外出介助を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア導入・小旅行の実施・図書館利用・コミュニティセンターの催し等に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月/2回往診、特変時は主治医の指示のもと、専門医への受診を支援している。	定期的な健康管理を行っており、家族・医師・ホームとが連携を取り合い利用者に対し適切な医療支援が提供できるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態観察、気づきを共有、主治医への報告、相談を管理者を通し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供をし、5日に1度程度の見舞いを行い、入院時の状況も把握できるようにしている。また、ご家族との連絡も密にし、退院後の受け入れ対応がスムーズにできるよう話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の意思を尊重する事を一番に考え、ご家族の意向にも配慮しつつ、十分な話し合いのもと、できる範囲の支援をしている。チームで共有する為の説明、カンファレンスも適宜(必要時)行っている。	法人として、重度化、ターミナルに関する方針が確立している。入所時、家族にホームができること、できないことを説明し理解を得ると共にホームとしてできる限りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、年2回蘇生術の研修をしている。 応急処置については、マニュアル整備、定期的に勉強会も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所の訓練を年2回行っている。 地域の避難訓練にも参加している。	非常災害時には利用者を迅速に非難誘導できるよう訓練を実施している。また、運営推進会議を通じて、非常災害時の近隣の住民の協力を呼びかけを行い、災害時には地域住民の協力が得られるようにしている。	災害発生時には近隣地域の協力が不可欠である。地域の協力が得られるよう粘り強い継続した取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけには十分配慮し、会議において、倫理・尊厳についての意見交換をしている。	スタッフは一人ひとりの生活歴・性格・特性を理解し、自尊心やプライバシーを損ねることのないケアを心掛けている。訪問調査の視察時では、スタッフが利用者に対し落ち着いた姿勢で傾聴・受容し、優しく対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別の選択肢提案が配慮されるよう、会議・カンファレンスの徹底をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望場所への外出支援を個別に対応している。 1日の流れもご入所者個人のペースに合わせるよう考慮している。 夜間入浴の実施はできていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己選択ができるよう、ご本人に合わせ、個別の声かけをしている。 化粧品等の物品も準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者発注をしているが、メニュー変更は自由に行ったり、フリーメニューにて、ご入居者同士が相談し決定をしている。	調理、片付け、買い物、配膳など利用者と職員と一緒に自然な流れで楽しみながら行っている。また、利用者と職員が同じテーブルを囲み、利用者が「食」を楽しむことができるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事摂取量・水分摂取量を記録し、全職員が把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別支援・声かけ、一部介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別排尿パターンを全職員が把握し、支援をしている。 現在能力を把握し、声かけの方法、他者に気づかれぬ配慮をしながら行っている。	日々の生活より排泄パターンを把握し、職員は個々にさりげない声掛け誘導・介助支援を行っている。また、生活リズムや状態等に変化が見られた場合は、現状把握・対応に心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージ・軽体操・朝会前の牛乳提供を行っている。 バイタル表への記録を徹底し、把握するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に1日おきの支援をしているが、臨機応変に対応している。	入浴の時間や回数等は入居者の希望に応じて柔軟に対応している。入浴の可否については体調を勘案しその都度確認したうえで決定している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の注意事項は、全夜勤者が把握できるよう、日勤者からの申し送りを徹底している。 不眠の訴えに対しては、お茶を飲みながら、ゆっくり傾聴する時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬一覧を作成し、確認できるようにしている。 薬変更時にも即対応できるよう、全職員に記録・把握を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことの支援方法を考慮している。 玄関掃除・献立メニュー記入・花の水やり等、役割をみつける支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い時は、手作り弁当を持参し、公園へ外出している。ご入居者がおにぎりを作り、パック詰めをし、楽しめるよう支援している。	日常的に外出の機会を設け、利用者の希望要望に応じて、散歩や買い物等の外出が行われている。また、個別での対応や様々なニーズに応えるべく職員同士連携を取っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で所持している方、事業所で預かりをしている方に分かれるが、買い物のレジ清算時は、能力把握をし、自己にて清算していただく支援もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を利用している方もいる。レクリエーションの中で、手紙や絵を書いている。また、定期的にご家族へ手紙を書いている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個別に座布団を作り使用したり、壁掛けを作ったり、生活空間の工夫をしている。季節に応じた貼り絵をご入居者と職員が一緒に作成している。	利用者と職員の距離が近く、職員は利用者に常に寄り添う形で支援を行っている。また、利用者は穏やかに日中は共有空間で過ごし居心地の良さが伺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にて椅子・テーブルを用意し、職員と話しをしたり、一人でお茶やお菓子を楽しみ時間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具・布団を持参していただく等、馴染みの環境を整えている。家族の写真や仏壇を持参されている方もみえる。	家具の持ち込み等は自由であり、使い慣れた家具や趣味の道具を配置する等居室一つ一つに個性が感じられた。利用者本人が生活しやすい環境となるよう配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物の配置を考慮し、危険回避をしたり、自己の居室がわかりやすいよう表札の位置・文字を工夫している。		

### 外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	日頃から地域に根ざした活動を行い、地域住民との関係構築に力を入れている。また、利用者が作成した作品等を地域行事に出店することで、ホームでの活動の理解を求めている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	定期的に行われている運営推進会議では、事業所の近況や活動内容について具体的な説明をしており理解を得るよう努めている。また、様々な意見交換が行われており、事業所の日々の取り組みの中に活かしている。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	区役所担当者と密に情報交換を行い、良好な関係の構築に努めている。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	来所時に家族と話す機会を設け、意見・要望の把握に努めている。受け止めた希望は毎月の会議で利用者ごとに検討して対応しており、アンケートでの満足度も高い。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	
総合評価		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営法人は太白区内に6箇所の地域密着型サービス事業所を運営しており、各事業所が密に連携をとっており、会議等の中で各事業所の情報や取り組み内容、抱える課題等情報の共有を図ることで積極的にサービスの質の向上に努めている。また、定期的に研修会等実施をし職員教育にも力を入れており、サービスを利用する利用者・家族の安心・満足へと繋がっている。一人ひとりの何気ない言葉を記録に残し、その言葉の持つ意味を職員間で考えることで、本人の思いや意向に沿った支援を行うことが出来るよう努めている。今後も地域対して、認知症・地域密着型サービスの理解を深める活動の充実等事業所が地域の資源となるような取り組みの充実に期待することである。

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
	(例示)
2. 事業所と地域のつきあい	① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。